

授業科目名・形態	児童・家庭福祉論	講義	必修・選択の別	選択	単位数	2
科目担当者氏名	中 里 操		実務経験の有無	無	開講期	2年前期

【授業の主題】

近年、我が国では子どもの貧困問題がクローズアップされている。また学校や地域の中でいじめによる自殺や不登校、引きこもりが増加している。児童相談所に寄せられる児童虐待の相談も増えている。子どもが安心して過ごせる居場所が少ないのかも知れない。子どもの生活への社会的関心が薄れているのかもしれない。社会福祉の問題は、いつの時代も社会の一番弱い部分に、姿を変えて現れる。授業では、子どもと家庭・地域社会の現状と課題に対する支援制度を学ぶ。

【到達目標】

1. 児童・家庭福祉領域のスペシャリストとしての社会福祉士を目指す。
2. 児童・家庭の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、児童福祉・子育ての福祉ニーズについて理解する。
3. 子ども家庭福祉制度の歴史を通して子ども家庭福祉問題が生まれるメカニズムについて理解する。
4. 子どもと家族の生活権を保障する、保障させるソーシャルワーカーとしての実践力養う。
5. 子ども家庭福祉問題への専門職対応として必要な相談援助活動に必要な問題認識力と問題の緩和・解決に必要な児童・家庭福祉制度や関連する施策・法制度について理解する。

【授業計画・内容】

- 第1回 児童・家庭福祉の意義と社会福祉士の役割
- 第2回 子ども観・子どもの権利と児童・家庭福祉の理念
- 第3回 日本の児童・家庭福祉の歴史
- 第4回 欧米の児童・家庭福祉の歴史
- 第5回 現代社会における子ども家庭の状況（1）（家庭をめぐる社会状況・子育て環境の変化）
- 第6回 現代社会における子ども家庭の状況（2）（乳幼児期の子どもの育ち・学童期以降の子どもの育ち）
- 第7回 児童・家庭福祉を支える法制度（児童福祉法・児童福祉六法・児童・家庭福祉関連法）
- 第8回 児童・家庭福祉の実施体制
- 第9回 子どもの福祉課題と子ども・子育て支援（1）
- 第10回 子ども・子育て支援（2）（母子保健・ひとり親家庭）
- 第11回 子ども・子育て支援（3）（貧困・非行）
- 第12回 子ども・子育て支援（4）（虐待・ドメスティック・バイオレンス）
- 第13回 子ども・子育て支援（5）（社会的養護①）
- 第14回 子ども・子育て支援（6）（社会的養護②）
- 第15回 これからの児童・家庭福祉と児童福祉学

【授業実施方法】

講義を中心に実施するが、認識を深めるために視聴覚教材を活用する。

【授業準備】

前回の講義内容を復習する。講義予定内容を読み、専門用語など解らないこと、疑問点などを整理しておく。講義中に取り上げたテーマなどを自ら文献に当たるなどして確認する。児童福祉関連のニュースに関心を寄せ、自分なりの理解と説明ができる状態で主体的に学習の準備をする。

【主な関連する科目】

社会福祉概論、公的扶助論、ソーシャルワークの理論と方法

【教科書等】

新・MINERVA 社会福祉士養成テキスト『児童・家庭福祉』ミネルヴァ書房

【参考資料、文献】

ビデオ資料等紹介、貸し出しする。

【成績評価方法】

授業への取り組み姿勢 20%、提出レポート 30%、期末試験の成績 50%の総合評価とする。

【学生へのメッセージ】

子どもたちの成長を支える社会システムの構築に向けた基盤となる科目です。自分の生活に重ね合わせながら、地域社会の中で起きている児童問題に関心を寄せてください。子どもに体现する事象の奥にある、見えない福祉要因を探ってください。児童福祉のスペシャリストとして保育士を位置づけています。資格取得を目指してください。